

令和5年9月1日

先月は、連日の記録的な猛暑日であったり、台風が近畿地方を直撃したりと天気のインパクトが強かったのですが、私個人としては今回は甲子園について触れざるを得ません。

自分が関係する学校が甲子園に出場することが決まった時に、今年はなんとしても甲子園に応援しにくんだという強い気持ちが芽生えました。ただ、いつ行けるのかというのが、大会日程の都合もありますので、スケジュール帳とにらめっこをしておりました。初戦はさすがに日時が予め決まっていたものの都合がつけられなかったのですが、うまい具合に勝ち進んでくれたので、「次の試合に勝てば、その次の試合は応援にいける」というチャンスが訪れました。

祈るようにその試合の推移を追っていたら、見事に勝ちまして、ついに「甲子園に応援しに行く」ということが実現しました。もうこの段階で願いは叶ったわけなのですが、いざ試合が始まるとやはり応援に熱が入りました。

周りの人たちは全然知らない人たちだったのですが、応援しているうちに一体感が出てきました。特に前の方にいた20代くらいの若い人たちは、ヒットが出たり点数が入ったりする度に、「先輩、やりましたね。」とか「先輩、打ちましたー！」とハイタッチしたり抱き合ったりして一緒になって喜んでくれました。「先輩」と呼ばれるのは何十年振りでしょうか。なんだかすごく嬉しかったです。結果的に試合にも勝って、みんなで校歌を歌ったのですが、幸せと感動で涙してしまいました。

こんな幸せな機会を与えてくれた、選手の方々はもちろん、全ての人たちに感謝したいと思いますし、今回の「一体感をもって進む」という経験を会社の方でも活かしていきたいです。

以上

代表取締役社長 角高哲治